

医療関連感染の簡単な背景説明

医療関連感染（HAI）は院内感染とも呼ばれ、患者が医療機関で治療を受けている間に感染症に罹患することをいう。医療関連感染は、患者が病原性の細菌、ウイルス、真菌または孢子にたまたま曝露される結果引き起こされる。こうした曝露の原因として、医療従事者の手の汚染、環境表面、患者同士の接触、カテーテルの挿入および留置などの作業が挙げられる。

医療関連感染について

- ・医療現場における薬剤耐性病原体の脅威はますます強まっている。医療関連感染の原因となる病原菌の70%以上が、最も一般的な医療関連感染症治療薬の少なくとも1つに対して耐性を示している。
- ・医療関連感染の原因となる細菌の中では、以下の3つが最も厄介である：
 - メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）
 - バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）
 - クロストリジウム・ディフィシル（C. diff.）
- ・米国疾病予防管理センター（CDC）によると、米国では毎年9万人もの人々が医療関連感染のために死亡し、医療関連感染症の治療のため年間45億ドルを超える追加コストが発生しているという。世界的に見て、薬剤耐性を有する微生物の60%はMRSAである。
- ・医療関連感染症の多くは、適切な方法で手を清潔にし、よく注意してヒト/物に接触し、アクティブ・サーベイランスを実施することなどを通じて予防することができる。

医療関連感染の影響

- ・医療関連感染は、米国内の入院患者20名に対し1名の割合で発生していると云われる。
- ・米国、ヨーロッパおよび日本では毎年6百万人が医療関連感染症に罹患し、感染件数は年1.7%の勢いで増えていると推定されている。
- ・世界保健機構（WHO）は、「院内感染は毎年、世界の何億人という人々に影響を及ぼしており、院内感染のため140万人もの人々が重篤な状態に陥っている」と報告している。
- ・WHOは、「先進国の入院患者の5~10%が医療関連感染症に罹患し、発展途上国の中には、罹患入院患者の25%以上が罹患している国もある」と推定している。

医療関連感染に起因する医療費の増加

- ・米国では、院内感染のため毎年280~300億ドルもの追加医療費が発生している。
- ・医療関連感染による血流感染の場合、1件当たりの平均治療コストが32,268ドルであったと報告されている。

- ペンシルバニア州医療費抑制協議会（PH4C）の2006年11月報告によると、医療関連感染症に罹患しなかった患者1名当たりの平均治療費が31,389ドルであったのに対し、同感染症に罹患した患者1名当たりの平均治療費は185,260ドルであった。また、医療関連感染症に罹患しなかった患者1名当たりの平均入院日数が4.5日であったのに対して、同感染症に罹患した患者1名当たりの平均入院日数は20.6日であった。
- 医療関連感染症に罹患した患者の場合、それ以外の患者と比べて入院日数が著しく増加し、その結果、追加治療費用が膨らんでいる。